

市バス来月10日から144便減便

鷲ヶ峰営業所管内運転手不足で

川崎市交通局は28日、時間外労働（残業）規制など「2024年問題」による運転手不足で、鷲ヶ峰営業所管内の市バス計144便を6月10日から減便すると市議会環境委員会で報告した。水沢邦紀交通局長は「市民に多大なご迷惑、ご不便をおかけし、申し訳ない。運転手の確保に努めていくが、不足は全国的な課題で（元の便数に）戻すのは厳しい状況だ」と述べた。同局によると4月現在、同営業所の運転手は181人で、10人不足しているという。減便は市北部4区で

運行する同営業所管内の18系統が対象。平日95便、土曜25便、休日24便。最も多いのは、鷲ヶ峰営業所前・聖マリアンナ医科大学前・発、溝口駅南口行き溝18系統で、現在平日は1日に355便運行のところ33便減り、322便となる。

石川建二議員（共産）は「市民の足として重要な路線ばかりで、便数が多いところは相応の利用客があつてのこと。人材不足が解消できなかったのは市の取り組み不足」と批判。三宅隆介議員（無所属）は「2024年問題は急に出てきた

減便後の時刻表は6月3日までに対象バス停などで周知する。同局は「朝ラッシュの時間帯をなるべく避け、運行本数の多い系統を優先的に選んだ」と説明した。

問題じゃなく、何年も前から言われていた。具体的にどんな採用方法の工夫をしてきたのか」と市の対応を

ただした。横浜市も4月に2度、運転手不足により市営バスを減便した。（北條香子）